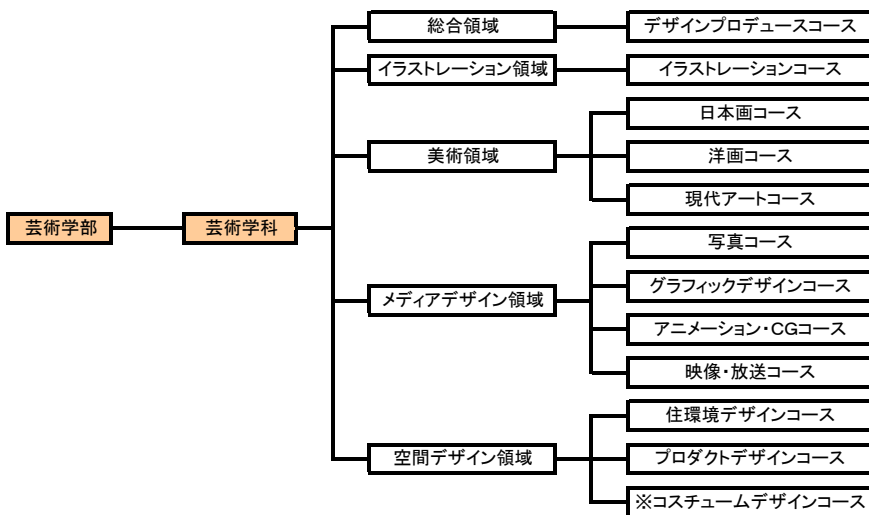


●学部・学科の名称●

学部名 芸術学部 (Faculty of Art)	学科名 芸術学科 (Department of Art)
造形学部 (Faculty of Visual Arts)	デザイン科 (Department of Design)
	造形美術科 (Department of Art)

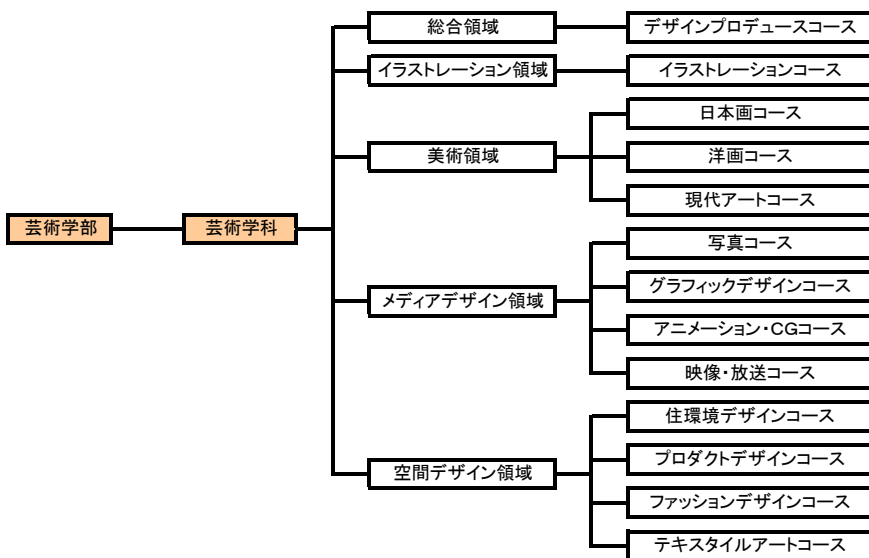
●学部・学科の構成●

【芸術学部 平成26(2014)年度以降の入学生】

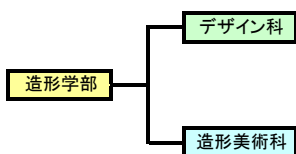


※平成26年度新入学生より、空間デザイン領域のファッションデザインコースとテキスタイルアートコースを再編し、コスチュームデザインコースを設置しました。

【芸術学部 平成25(2013)年度以前の入学生】



【造形学部】 ※下記造形学部は、平成22年4月より募集を停止しました。



●成安造形大学の目的●

成安造形大学は、デザイン及び美術に関する学術の中心として、広く知識を授けると共に、深く専門の理論、技能及びその応用を教授研究し、人格の完成を図り、国際性に富み、個性豊かな教養の高い人材を育成し、もって文化の創造・発展、産業の発展、国家社会の福祉に寄与することを目的とする。（成安造形大学学則第1条）

●芸術学部芸術学科の目的●

(1) 人材育成目的

「芸術による社会への貢献」という基本理念(教育理念)の下、「誠と熱」を持ち、公正さと創造性を兼ね備える、発想力・提案力・技術力に優れた清廉な人材の育成を目的とする。(成安造形大学学則第2条の2)

(2) カリキュラムポリシー(教育課程編成方針)

【平成26(2014)年度以降の入学対象のカリキュラムポリシー】

- 1 学修の順次性を明確にし、総合的な造形的基礎と高度な専門性を養成する。
- 2 導入教育を充実させて社会人として必要な基礎力と対課題能力を養成し、それぞれが学ぶ専門分野と有機的にむすびついた高度な社会実践力を確立する。

この編成方針の下に芸術学部芸術学科の教育課程は、1年前期・後期を《専門導入課程》、2年前期・後期 3年前期・後期を《専門基盤課程》、4年前期・後期を《専門研究課程》に分けます。また、各科目を「学部共通科目」と「専門科目」で編成します。

「学部共通科目」では、「基礎科目群」、「応用科目群」、「教養科目群」、「社会実践科目群」の4つを大きな柱としています。

「基礎科目群」では、4年間の大学生活を自主的かつ円滑に進めるために必要な基礎的学力を身につけるスタートプログラム科目や芸術に対する認識の基盤となる理論の初歩を幅広く学び、広範な造形活動を支える芸術基礎科目、所属する領域に関係なく、基本的な造形力を幅広く身につけるファウンデーション科目で構成されています。

「応用科目群」では、広範な芸術活動の専門性を理論的、実践的に支え、各領域の専門基盤課程、専門研究課程において必要とされる専門的知識・技能を習得するための芸術応用科目を提供します。

「教養科目群」には多様な知識・教養を学ぶことにより、多角的な視野や豊かな知性、柔軟な思考力を身につけ、各学生が幅広い視点から造形活動を捉えることができる資質を獲得するための教養科目、異文化コミュニケーション能力を身につけることにより、グローバルな視点に基づく思考力や創造力を獲得するための外国語科目があります。また、大学コンソーシアム京都や環びわ湖大学連携による単位互換協定を締結した滋賀県、京都府の大学、短大の科目を受講することもできます。

「社会実践科目群」は、社会との関係のなかで自己を確認し、卒業後の自己実現のために寄与する科目群です。地域連携・プロジェクト科目は、「芸術による社会への貢献」を実現する科目として「芸術力」要請をもとに実践的な知識・技術を活用し、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、問題解決能力に優れた社会の即戦力となる人材育成を目的としています。また、キャリアデザイン科目は、キャリア形成を考えるうえで前提となる「自己分析・自己発見」「社会を知る」ということを段階的に学ぶことにより、学生が各々の目標に合わせたキャリアデザインを構築するための科目です。

「専門科目」では、それぞれに「専門導入科目群」、「専門基盤科目群」、「専門研究科目群」の3つを段階で履修します。

「専門導入科目群」では、専門分野を修めるために必要不可欠な最低限の知識や技能を養うための必要不可欠な実習科目、演習科目を、「専門基盤科目群」では各自の専門領域の基盤となる知識や技術を修得することで、各自の専門性を深く究めてもらうための実習科目と演習科目を、「専門研究科目群」ではゼミ段階的な履修や選択的な履修をもとに、各自の専門領域にかかわる知識や技術を広く修得することを通して、より高度な表現力や思考力を獲得するとともに、各自の専門性を深く究めてもらうための研究科目、卒業制作を設置しています。

【平成25(2013)年度以前の入学生対象のカリキュラムポリシー】

芸術学科のカリキュラムは造形基本科目、造形専門科目、一般教養科目、大学基礎科目、語学教養科目、キャリアデザイン科目、造形プロデュース科目、専門科目の8科目に分かれる。カリキュラムの根幹は造形教育を中心とした専門科目にある。1年次においては学科で共通の造形演習と実習を行う。2年次からは本学科の中核で造形分野を5領域、13のモデルコースに分けてそれぞれ専門性を深めていく。しかし、ひとつのコースに限定するのではなく、学生個々の志向性に合せ、他の領域、コースの専門実習も受講することもできる。造形基本科目、造形専門科目、一般教養科目、大学基礎科目、語学教養科目、キャリアデザイン科目、造形プロデュース科目の7科目は専門科目を補い、造形表現力にとどまらず社会人として通用する生きる力、いわゆる人間力を持った学生を育成する。

【造形基本科目、造形専門科目】

必修科目で造形実習を学ぶにあたって、ものづくりの思想的な根幹や歴史、現代の様相など幅広い知識を修得する。

【一般教養科目、大学基礎科目、語学教養科目】

ものづくりにとどまらず広く視線を外へ向け、国際交流や異文化理解も含めて幅広く深い教養を身につける。

【キャリアデザイン科目、造形プロデュース科目】

実社会での実践を通して能力開発を行う。2年次では実社会を意識し、仮想体験や社会常識等の知識を得、3年次・4年次ではプロジェクト等を通して実社会を体験する。

【専門科目】

専門科目は芸術学科に5つの領域を設け、各領域で芸術表現における目標設定を行っている。1年次においては全領域共通で演習・実習が行なわれ、平面・立体、メディア表現など様々な表現形態に触れ、造形表現の基本を徹底的に学ぶ。2年次・3年次は各領域に分かれ、領域内の共通科目と各コースに分かれた専門の演習・実習科目を履修し、専門性を追求していく。4年次には各専任教員の個別指導となり、4年間の集大成である卒業制作展に向けての仕上げを行う。

(3) ディプロマポリシー(学位授与方針)

【平成26(2014)年度以降の入学生対象のディプロマポリシー】

※授与する学位は、学士(芸術学)です。

成安造形大学 教育目標(学士課程の学習成果に関する指針=学位授与の方針)

1 知識・理解(認知的領域)

- (1) 芸術分野における基本的な知識を体系的に理解できる。
- (2) 芸術分野の知識と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解できる。
- (3) 多文化・異文化を理解し、多様性を尊重できる。

2 技能(精神運動的領域)

- (1) 日本語や特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。自分の考えを伝えることができる。
- (2) 情報通信技術を利用して、多様な情報を収集し、的確に把握し、発信することができる。
- (3) 専門分野において基礎的な造形能力を身につけている。
- (4) 問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理することができる。論理的思考力によって、解決のための計画を立案し、実行できる。

3 態度・志向性(情動的領域)

- (1) 自らを律して行動できる。指示を待つのではなく、やるべきことに積極的に取り組める。
- (2) 他者と協調して行動できる。他者に方向性を示し、目標の実現のために動員できる。
- (3) 卒業後も自らを律して学習できる。
- (4) 自己の良心と社会の規範に従って、誠意と熱意を持って行動できる。
- (5) 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を理解し、社会に貢献できる。

4 創造性(総合的・実践的領域)

- (1) 獲得した知識・技能・態度等を総合的に活かし、研究制作成果を提示できる。
- (2) 専門分野における経験を活かし、自らが立てた課題において創造的提案ができる。

【平成25(2013)年度以前の入学生対象のディプロマポリシー】

※授与する学位は、学士(芸術学)です。

デザイン・美術・工芸分野の諸領域を包括的に芸術ととらえ、その芸術の理論と実践、それらの歴史的・理論的研究、支援・普及の手法の研究をすすめ、専門分野に特化したスペシャリスト、幅広い知識と技能を身に付けたジェネラリスト、バランス感覚に優れたクリエイターの育成を教育目標とした、各専門分野を横断して学べるカリキュラムを編成し、卒業までに所定の単位を修めた学生に対し卒業を認定し、学位(芸術学士)を授与する。

●造形学部の目的●

「芸術による社会への貢献」という大学の理念の下、幅広い教養とデザイン・造形美術に関する専門技能を体得させ、社会の即戦力となる人材の養成を目指し、専門分野にも特化しながらも広い視野で大きな事象が把握できるように指導し、バランス感覚の取れた質の高いクリエイターの育成を目指す。

●造形学部デザイン科の目的●

(1) 人材育成目的

今日の社会の変化は、かつて人類が経験しなかった加速度を持っている。多様な変化の予想される21世紀の社会において、自らの尺度を持ち、柔軟な発想、思考、感性に基づき、自ら判断し、「ものづくり」「ことおこし」のできる人材を育成する。

(2) カリキュラムポリシー(教育課程編成方針)

1年生から専門教育を行い4年間で社会に出る技量を身に付けさせ、少人数教育、人間性の重視、コラボレーション、フィールドワーク、情報教育の重視、生涯学習、国際交流、クラスを超えた教育環境づくりなどを行いながら、専門教育での必修科目を体系的に修得できる教育課程を編成。選択科目は学部共通基本科目として、造形基本科目群、教養科目群、社会実践科目群に分割し、学生に自由選択させることにより、学生が地域社会における実体験を積み、芸術と社会の有様を具体的に模索する機会を充実させ、実践していく。

【造形基本科目群】

1・2年次で履修する基礎科目、1～4年次で履修する専門科目を通じて、造形活動にかかわる専門家としての知識を深めていく。

【教養科目群】

大学において必要な基礎的な能力を養成するために、大学基礎科目、語学教養科目、一般教養科目を設け、学びの基礎・考え方の基礎・コミュニケーション力などを深めていく。

【社会実践科目群】

自分の将来の姿を現実にも近づけるため、キャリア支援の実践的なプログラムを展開し、また芸術による社会への貢献を実現する造形プロデュース科目を設け、社会貢献における幅広い知識を修得する。

【群別専門科目群】

必修科目を学ぶにあたって、より専門分野を追求し、ものづくりの根幹や歴史など、各群・各クラスの専攻分野を深く掘り起こし、幅広い知識を修得する。

(3) ディプロマポリシー(学位授与方針)

「デザイン」を科学・技術と人間の調和のためのメディアとして積極的に捉え、自らが柔軟な発想、思考、感性に基づき「ものづくり」「ことおこし」のできる人材育成を教育目標とした、一つの専門分野に固守することなく多様化し拡大するデザインの領域を総合的に把握、学べるようなカリキュラムを編成し、卒業までに所定の単位を修めた学生に対し卒業を認定し、学位(芸術学士)を授与する。

●造形学部造形美術科の目的●

(1) 人材育成目的

クラス横断的なコラボレーション、またさまざまなアーティストとの直接的な出会いなどを通じて、専門性を深めていき、「描く」「彫る」「染める」「構想する」という「ものづくり」の継続した持続性と信念と知識を学び、社会で活躍してゆける人材を育成する。

(2) カリキュラムポリシー(教育課程編成方針)

1年生から専門教育を行い4年間で社会に出る技量を身に付けさせ、少人数教育、人間性の重視、コラボレーション、フィールドワーク、情報教育の重視、生涯学習、国際交流、クラスを超えた教育環境づくりなどを行いながら、専門教育での必修科目を体系的に修得できる教育課程を編成。選択科目は学部共通基本科目として、造形基本科目群、教養科目群、社会実践科目群に分割し、学生に自由選択させることにより、学生が地域社会における実体験を積み、芸術と社会の有様を具体的に模索する機会を充実させ、実践していく。

【造形基本科目群】

1・2年次で履修する基礎科目、1～4年次で履修する専門科目を通じて、造形活動にかかわる専門家としての知識を深めていく。

【教養科目群】

大学において必要な基礎的な能力を養成するために、大学基礎科目、語学教養科目、一般教養科目を設け、学びの基礎・考え方の基礎・コミュニケーション力などを深めていく。

【社会実践科目群】

自分の将来の姿を現実に近づけるため、キャリア支援の実践的なプログラムを展開し、また芸術による社会への貢献を実現する造形プロデュース科目を設け、社会貢献における幅広い知識を修得する。

【群別専門科目群】

必修科目を学ぶにあたって、より専門分野を追求し、ものづくりの根幹や歴史など、各群・各クラスの専攻分野を深く掘り起こし、幅広い知識を修得する。

(3) ディプロマポリシー(学位授与方針)

美術表現が、常に時代と不可分に共存しているという認識に立ち、その歴史的展開と発展過程を学習・研究する。現代日本社会が求め、世界が期待する日本独自の表現の可能性を追求する一方で、芸術文化の「良き鑑賞者」「良き享受者」の育成を教育目標とした、各専門科目の必修科目において基礎から応用、展開への技術と方法、思考、発想などを学べるカリキュラムを編成し、卒業までに所定の単位を修めた学生に対し卒業を認定し、学位(芸術学士)を授与する。